

## 伝道者の書

1:3 日の下でどんなに労苦しても、それが人に何の益になるだろうか。

@基本的にこの書のコメントは地上的な視点に立っている

1:14 私は、日の下で行われるすべてのわざを見たが、見よ、すべては空しく、風を追うようなものだ。

1:17 私は、知恵と知識を、狂気と愚かさを知ろうと心に決めた。それもまた、風を追うようなものであることを知った。

2:2 笑いか。私は言う。それは**狂気だ**。快樂か。それがいったい何だろう。  
狂気だ=ハラル◀ 1984. halal (להל)165 回▶(源)輝く (訳出では「賛美、誇る、  
気が狂う」)

(NAS) : madness, (KJV) mad: (改 2)ばからしい (改 4)狂気だ

2:21 なぜなら、どんなに人が知恵と知識と才能をもって労苦しても、何の労苦もしなかった者に、自分が受けた分を譲らなければならないからだ。これもまた空しく、大いに悪しきことだ。

。

@自分のしているミニストリーの後継者は誰か? =弟子を育てて行く事の大切さ

もし後継者を作らないあるいは作れないミニストリーはたとえ成功してもむなし

@ミニストリーを引き渡すには

- 1、その人を知っている。
- 2、仕える人 (共に苦勞した人)

2:23 その一生の間、その営みには悲痛と苛立ちがあり、その心は夜も休まら

ない。これもまた空しい。

2:26 なぜなら神は、ご自分が良しとする人には知恵と知識と喜びを与え、罪人には、神が良しとする人に渡すために、集めて蓄える仕事を与えられるからだ。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

3:11 神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。

3:14 私は、神がなさることはすべて、永遠に変わらないことを知った。それに何かをつけ加えることも、それから何かを取り去ることもできない。人が神の御前で恐れるようになるため、神はそのようにされたのだ。

3:20 すべては同じ所に行く。すべてのものは土のちりから出て、すべてのものは土のちりに帰る。

3:21 だれが知っているだろうか。人の子らの霊は上に昇り、獣の霊は地の下に降りて行くのを。

霊 = ◀ 7307. ruach 377 回 ▶ 霊、息、風

@ 地上的視点から見た考え

4:2 いのちがあつて、生きながらえている人よりは、すでに死んだ死人に、私は祝いを申し上げる。

祝いを申し上げる = シャバク ◀ 7623. shabach (n 2ψ) 11 回 ▶ もともとの意味は「静まる」(訳出では「静める

(NAS) congratulated (KJV): praised

4:4 私はまた、あらゆる労苦とあらゆる仕事の成功を見た。それは人間同士のねたみにすぎない。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

第2コリント 10:12 私たちは、自分自身を推薦している人たちの中のだれかと、自分を同列に置いたり比較したりしようとは思いません。彼らは自分たちの間で自分自身を量ったり、互いを比較し合ったりしていますが、愚かなことです。

4:9 二人は一人よりもまさっている。二人の労苦には、良い報いがあるからだ。

4:10 どちらかが倒れるときには、一人がその仲間を起こす。倒れても起こしてくれる者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。

4:11 また、二人が一緒に寝ると温かくなる。一人ではどうして温かくなるだろうか。

温かくなる=◀ 2552. chamam (חמם) 13回▶(V) 暖かい、暖かくなる

温かくなる=◀ 3179. yacham (יָחַם) 10回▶(V) 熱い、身ごもる、交尾する(創世記 30:39)

さか

りがつく(創世記 30:41)

4:12 一人なら打ち負かされても、二人なら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない。

@三つ撚りの糸=夫と妻と主

4:16 その民すべてには終わりが無い。彼を先にして続く人々には。後に来るその者たちも、後継の者を喜ばない。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

@民の先頭に立っても＝人気があっても（ハビエル訳）

5:2 神の前では、軽々しく心焦ってことばを出すな。神は天におられ、あなたは地にいるからだ。だから、ことばを少なくせよ。

5:7 夢が多く、ことばの多いところには空しさがある。ただ、神を恐れよ。

5:10 金銭を愛する者は金銭に満足しない。富を愛する者は収益に満足しない。これもまた空しい。

5:13 私は日の下に、痛ましいわざわいがあるのを見た。所有者に守られていた富が、その所有者自身に害を加えることだ。

5:19 実に神は、すべての人間に富と財を与えてこれを楽しむことを許し、各自が受ける分を受けて自分の労苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である。

6:9 目が見ることは、欲望のひとり歩きにまさる。これもまた空しく、風を追うようなものだ。

7:2 祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほうがよい。そこには、すべての人の終わりがあり、生きている者がそれを心に留めるようになるからだ。

伝 7:7 虐げは知恵のある者を狂わせ、賄賂は心を滅ぼす。

狂気だ＝ハラル◀ 1984. halal (הלל)165 回▶(源)輝く (訳出では「賛美、誇る、気が狂う」)

(NAS)(KJV): mad (改 2)愚か (改 4)狂わせ

7:14 順境の日には幸いを味わい、逆境の日にはよく考えよ。 これもあれも、神のなさること。後のことを人に分からせないためである。

(改2) 順境の日には喜び、逆境の日には反省せよ

7:20 この地上に、正しい人は一人もいない。善を行い、罪に陥ることのない人は。

7:28 私のためしいは、なおも探し求めたが、見出すことはなかった。私は千人のうちに、一人の男を見出したが、そのすべてのうちに、一人の女も見出さなかった。

8:12 悪を百回行っても、罪人は長生きしている。しかし私は、神を恐れる者が神の御前で恐れ、幸せであることを知っている。

8:15 だから私は快樂を賛美する。日の下では、食べて飲んで楽しむよりほかに、人にとっての幸いはない。これは、神が日の下で人に与える一生の間に、その労苦に添えてくださるものだ。

賛美するシャバク◀ 7623. shabach (שָׁבַח)11回▶ もともとの意味は「静まる」(訳出では「静める」★

(NAS)(KJV) commended

8:17 すべては神のみわざであることが分かった。人は日の下で行われるみわざを見極めることはできない。人は労苦して探し求めても、見出すことはない。知恵のある者が知っていると思っても、見極めることはできない。

9:2 すべてのことは、すべての人に同じように起こる。同じ結末が、正しい人にも、悪しき者にも、善人にも、きよい人にも、汚れた人にも、いけにえを献げる人にも、いけにえを献げない人にも来る。善人にも、罪人にも同様に、誓

う者にも、誓うのを恐れる者にも同様だ。

9:4 しかし、人には拠り所がある。生ける者すべてのうちに数えられている者には。生きている犬は死んだ獅子にまさるのだ。

@救いは生きているうちに受け取らねばならない。

9:6 彼らの愛も憎しみも、ねたみもすでに消え失せ、日の下で行われることすべてにおいて、彼らには、もはや永遠に受ける分はない。

9:7 さあ、あなたのパンを楽しんで食べ、陽気にあなたのぶどう酒を飲め。神はすでに、あなたのわざを喜んでおられる。

9:8 いつもあなたは白い衣を着よ。頭には油を絶やしてはならない。

9:9 あなたの空しい人生の間、あなたの愛する妻と生活を楽しむがよい。彼女は、あなたの空しい日々の間、日の下であなたに与えられた者だ。それが、生きている間に、日の下でする労苦から受けるあなたの分なのだ。。

9:10 あなたの手がなし得ると分かったことはすべて、自分の力でそれをせよ。あなたが行こうとしているよみには、わざも道理も知識も知恵もないからだ。

9:15 その町に、貧しい一人の知恵ある者がいて、自分の知恵を用いてその町を救った。しかし、だれもその貧しい人を記憶にとどめなかった。

10:1 死んだハエは、調香師の香油を臭くし、腐らせる。少しの愚かさは、知恵や栄誉よりも重い。

10:7 また、奴隷たちが馬に乗り、君主たちが奴隷のように地を歩くのを、私は見た。

@主を自分の奴隷のように考える人

10:10 斧が鈍くなったときは、刃を研がないならば、もっと力がある。しかし、知恵は人を成功させるのに益になる。

10:16 わざわいなことよ、あなたのような国は。王が若輩で、高官たちが朝から贅沢な食事をする国は。

@朝から贅沢な食事をする=(改2)食事をする

11:3 濃い雲が雨で満ちると、それは地上に降り注ぐ。木が南風や北風で倒れると、その木は倒れた場所にそのまま横たわる。

@いつも主の愛に満たされていないならば、他人に注げない

@私達の救いは死んだ時点で信じていたかどうかであって死後に変える事は出来ない。

11:4 風を警戒している人は種を蒔かない。雨雲を見ている人は刈り入れをしない。

@状況に目を留めずすべてのことをする。完璧を求めない。

11:6 朝にあなたの種を蒔け。夕方にも手を休めてはいけない。あなたは、あれかこれかどちらが成功するのか、あるいは両方とも同じようにうまくいくのかを知らないのだから。

11:9 若い男よ、若いうちに楽しめ。若い日にあなたの心を喜ばせよ。あなたは、自分の思う道を、また自分の目の見るとおりに歩め。しかし、神がこれらすべてのことにおいて、あなたをさばきに連れて行くことを知っておけ。

@ (イザヤ 50:11) 50:11 見よ。あなたがたはみな、火をともし、燃えさしを身に帯びている。あなたがたは自分たちの火の明かりを持ち、火をつけた燃えさしを持って歩くがよい。このことは、わたしの手によってあなたがたに起こり、あなたがたは苦悶の場所で伏し倒れる

@ (詩篇 119:9) どのようにして若い人は自分の道を清く保つことができるでしょうか。あなたのみことばのとおり道を守ることです。

12:1 あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。

12:3 その日、家を守る者たちは震え、力のある男たちは身をかがめ、粉をひく女たちは少なくなって仕事をやめ、窓から眺めている女たちの目は暗くなる。

家を守る者たちは震え＝腕力

力のある男たちは身をかがめ＝背骨が曲がる

粉をひく女たちは少なくなって仕事をやめ＝歯が抜ける

窓から眺めている女たちの目は暗くなる＝視力がわるくなる

12:4 通りの扉は閉ざされ、臼をひく音もかすかになり、人は鳥の声に起き上がり、歌を歌う娘たちはみな、うなだれる。

通りの扉は閉ざされ、臼をひく音もかすかになり＝聴力

人は鳥の声に起き上がり＝幻聴

歌を歌う娘たちはみな、うなだれる。＝声が出なくなる

12:12 わが子よ、さらに次のことにも気をつけよ。多くの書物を書くのはきりが無い。学びに没頭すると、からだは疲れる。

12:13 結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の

命令を守れ。これが人間にとってすべてである。